遊楽 彩祭

三谷市民文化振興財団ニュース

国指定伝統工芸品および県指定郷土工芸品
「若狭めのう」

イベント情報

みんなで遊ぼうお正月！　～コマやすごろく、羽子板などで遊びましょう!! ～

1月3日（土）～7日（水）　9：30 ～ 16：30
福井県児童科学館・エンゼルランドふくい内
ファンタジーエッグ（坂井市春江町）

コマ回し、福笑い、おはじき、お手玉、扇子とばし、すごろく、羽根突き……。新年からも、福井県児童科学館は親子で楽しめるイベント満載！　初詣に出かけたら、昔ながらのお正月遊びで、家族みんなで過ごしましょう！

参加料：無料　㊐福井県児童科学館　☎0776-51-8000

恐竜ふれあい教室
「親子で化石のレプリカをつくろう！」

1月4日（日）／福井県立恐竜博物館（勝山市村岡町）

石こうを使って、アンモナイトなどの化石の複製を作ります。参加を希望される方は、往復ハガキかE-mailにて、「恐竜ふれあい教室（1月4日）参加希望」と、氏名、年齢か学年、保護者名、住所、電話番号を博物館までお知らせ下さい。

入場料：無料（展示をご覧になる場合は、観覧券の購入が必要です。）
対象：4歳から小3までの親子15組
申込先：〒911-8601 勝山市村岡町寺尾51-11　福井県立恐竜博物館
E-mail：info@dinosaur.pref.fukui.jp
㊐福井県立恐竜博物館教育普及係　☎0779-88-0001

御食国（みけつくに）若狭おばま検定（受検者限定落語会）

2月1日（日）　試験 13：00 ～ 14：00、寄席 14：15 ～ 16：00、
最優秀賞表彰及び特別賞抽選 16：00 ～／小浜市働く婦人の家（小浜市大手町）

落語ブームや米国の大統領選挙で、全国にその名を知らしめた小浜市に関する検定です。「自然・食・歴史・文化」など様々な分野から出題されます。検定実施後に行われる受験者限定の落語会では、「落語界のくまのプーさん」こと笑福亭三喬さんが高座に上がります！　この機会に検定を受けて、あなたの「小浜通・物知り博士」度を試してみては!?

検定料：1,000円　HP：http://www.wakasa-obama.jp/kankoinfo/
㊐小浜市役所観光交流課内若狭おばま観光協会　☎0770-53-1111

津軽三味線ユニット「あんみ通」
ほほえみライブ in みくに　春一番・元気一番・あんみ通

3月20日（金）　19：00 ～
みくに文化未来館（坂井市三国町）

「あんみ通」の2人は津軽三味線の大会で次々と入賞を果たした安仲由佳と金田一公美の実力派ユニット。全国各地でのコンサートはもとより、首相官邸の晩餐会における演奏から学校公演まで幅広く活動中。今回は、笛や箏・十七絃をこなす仲林理恵とのコラボをお送りします。

全席指定席：2,500円（当日3,000円）
㊐みくに文化未来館　☎0776-82-7200

花換まつり

4月1日（水）～15日（水）／金崎宮（敦賀市金ヶ崎町）

「恋の宮」とも呼ばれる金崎宮で、毎年恒例の花換まつりが行われます。満開の桜の木の下、恋人・家族・友達同士が「花換えましょう」と声を掛け合い、小枝を交換します。

入場料：無料
㊐㈳敦賀観光協会　☎0770-22-8167
敦賀観光案内所　☎0770-21-8686

財団法人　三谷市民文化振興財団
〒910-8571 福井県福井市豊島1-3-1　三谷ビル
TEL：0776-20-3188　FAX：0776-20-3306

2008年12月発行　・このニュースに関するお問い合わせは、☎0776-33-7571（株）コミネットまで

YURAKU SAISAI

ふくいの無形文化財

勝山左義長　2月最終土日

祭りの規模が大きいことから、県内外より多くの見物客が訪れる勝山左義長。各町内の櫓（やぐら）の上で奏でられる三味線、篠笛、鉦（かね）に合わせて、長襦袢を着て女装した「浮き男」が太鼓を叩きながら、独自のスタイルで浮かれる（「踊る」の意味）。祭り最終日の「どんど焼き」では、櫓に奉った御神体などに点火し、その炎で無病息災を祈願する。

（勝山市）

ふるさとめぐり

第一回　高浜町

伝説

… 姉恋いの鐘（鐘寄）…

その昔、朝鮮より姉妹の鐘が日本に運ばれたが、この道中、暴風に遭い、姉の鐘は海底に沈み、妹の鐘は高浜の海岸に漂着。妹の鐘は佐伎治（さいち）神社に納められ、これを突くと「アネゴーン」と悲しそうな音が鳴った。姉の方を海から引き上げようとすると不思議なことに、にわかに海が黒く染まり、今度は妹の鐘を海底に沈めると、どんなに日照りが続いた日でも雨が降ったという。

歌碑

北の海 若狭の浜に 咲くものか
紫あはき はまごうの群落

若山 喜志子

この歌は、今から約50年前に高浜町和田で短歌の全国大会が行われた際、若山牧水の妻・喜志子が詠んだものである。美しくエキゾチックな和田海岸の情景を、「温暖な場所のみに咲く蔓荊（はまごう）が、この北国の海岸にも咲いているのは不思議なことだ。」と表現している。

歌碑に会いに行く

〒919-2292 福井県大飯郡高浜町和田（安土山やすらぎ公園内）
■問合せ先
高浜町商工観光課
〒919-2292 福井県大飯郡高浜町宮崎71-7-1
☎0770-72-7708

財団法人 三谷市民文化振興財団
助成団体募集!!

募集期間：2009年5月1日～6月19日

財団法人 三谷市民文化振興財団は、福井県内におけるボランティア活動、スポーツ活動、市民文化活動の振興を通じて「こころ豊かな地域づくり、社会づくり」に貢献することを目的として、2009年度の助成団体の募集を行います。

▶募集の要領

●助成の対象分野
・ボランティア活動
・スポーツ活動
・市民文化活動

●助成の対象となる団体

■営利を目的としない次の条件を満たす団体
1．福井県内で活動している団体
2．会員が5名以上の団体
3．設立1年を経過している団体
（2008年4月以前に設立したもの）
4．特定の資格・経歴等の条件を必要としない、個人で加入できる民間の団体

●助成金額　1件あたり約20～30万円

●応募締切日　2009年6月19日（金）
（当日消印有効ですが、なるべく早めに提出ください）

●結果連絡　選考員会による審査で決定し、2009年7月末までに団体代表宛に連絡いたします。
（採否の理由に関するお問い合わせには応じ兼ねます。）

●助成金贈呈時期　8月上旬（日時は後日連絡いたします。）

助成要望申請書の入手方法

方法1　三谷市民文化振興財団のホームページ（www.mitene.or.jp/m-zaidan）で助成要望申請書をダウンロードしてください。

方法2　三谷市民文化振興財団へFAX※FAXは資料請求のみ（0776-20-3306）にて助成要望申請書を依頼ください。後ほど郵送いたします。

助成要望申請書以外にもご提出いただく書類があります。
詳細は財団のホームページをご覧いただくか、お問い合わせください。

財団法人　三谷市民文化振興財団　☎0776-20-3188
〒910-8571 福井県福井市豊島1-3-1 三谷ビル

三谷市民文化振興財団の助成団体

福井市

患者への理解を深め、同じ目線で寄り添う
精神保健福祉ボランティア「クレヨン」

■連絡先　福井市社会福祉協議会 ボランティアルーム　☎0776-26-1853

現代社会の環境から受ける重圧などで、年々増加しつつある「心を病む人」の社会復帰をサポートするため、病院や施設など関係機関の支援のもと平成4年に設立されたのが、国内2番目の精神保健福祉ボランティア「クレヨン」だ。ボランティアといっても、参加するにはクレヨンが主催する講座の受講と数日の実習が条件。入会後も、患者と触れ合う一方で医療関係者を招いてのセミナーや定例会などを実施。精神疾患への理解を深め、専門知識を習得するための努力も怠らない。

一見、ボランティアの枠を超えた「プロ」のようだが、スタンスはあくまでも「素人」。患者と同じ目線に立ち、歩調を合わせることで、孤独になりがちな患者の心に安らぎを与え、社会復帰へと導く大きな支えとなっている。

勝山市

親子が一緒に楽しみ、地域との交流の場を提供する
勝山子ども劇場

■連絡先　勝山市民活動センター内 勝山子ども劇場　☎0779-87-1011

家族単位での入会が条件というユニークな「勝山子ども劇場」は、働く母親たちが中心となって平成2年に設立された。評判の良い劇団を招いて子どもと一緒に演劇鑑賞をすることが主な活動内容だが、工作体験やバザーなどの催しも企画。親子のコミュニケーションが日頃以上に図れるばかりでなく、普段は出会う機会のない家族同士の交流の場にもなり、地域の連帯感が深まるきっかけ作りにも一役買っている。

さらに、テレビに慣れ親しんで演劇鑑賞の機会が少ない現代の子どもたちが、「観劇する楽しみ」を知ることができるのも「勝山子ども劇場」ならではの特権だ。生の芸術に触れ、親子が笑顔を分かち合える。そこで生まれた交流が、親子の絆を深め、子どもの心を豊かに育む大きな力となっている。

ブンカのカガミ

山本英明
「今、必要なもの」を、誠意を持って作る塗師屋

「伝統工芸とは何ですか？」
塗師屋（ぬしや）・山本英明さんは人に問いかける。返答に戸惑う相手に、
「今も昔も同じことを繰り返すのが伝統ではない。技術は受け継ぎつつ、自然の風景と人間の考えを把握して、永遠に作り替えていくものが伝統だと思っている」
と力強く訴える。

このような考え方に至ったのも、人生の中で人も物も変わっていく様を目にしてきたから。例えば、半世紀前まで婚礼は自宅で行うもので、漆器はもてなしの食器だった。正月に重箱でおせちをつまむのも普通のこと。しかし時代とともに伝統的な漆器が食卓にそぐわなくなっていく。

「時代が変わり、生活の風景が変わったら道具も変わらなくては」。

それからというもの、常に「今、必要なもの」を意識するようになった。

伝統工芸を語ると、必ずといっていいほど後継者不足の問題に行きつく。この現状に山本さんは「商品が売れれば、後継者はできる」と一喝。「伝統工芸品に価値をつけるのは身銭を切って買ってくれるお客さんなんや。国やお偉いさんが後継ぎを！　と唱えたってあかん。買ってくれる人の声を聞いて作らないから売れん。だから後も続かない」。

幸いにして長男が同じ道に入った。「息子には息子の時代があり、付き合いがある。私は口を出さん。今生きている証となる仕事をしてくれればいい。私とは違う方向を向いて仕事をしてほしいんや」。言葉の奥から、幅広い見識を持ってほしいと願う親心が伝わる。

「私は万人が気に入るものを作りたいんじゃない。たった一人でもいいから気に入ってくれるものを作りたい。誠意を持って人にも仕事にも向き合えば、ご飯は食べていけるもんやよ」。

何事も誠意を持って向き合う姿勢は、漆器職人だけではなく、社会に生きるすべての人に通じるもの。山本さんは、そんな言葉をさらりと言える飾り気のない職人なのだ。

※漆器製造において木地屋や塗師などに仕事の割り振りをし、全責任を負う要の職。山本さんはさらに「豊かな生活をするために、何が必要かを考えて世の中に送りだす」信条を付け加えている。

●やまもと・ひであき／1940年鯖江市生まれ。祖父の代から続く越前の塗師屋3代目。

◀立山椀

◀茶入れ